

東海市中心市街地活性化基本計画

(概要版)

~人と人をつなぎ、交流から生みだす
にぎわい溢れるまちづくり~

愛知県 東海市
平成28年 3月

1. 前計画の成果と課題

■計画期間：平成23年6月から28年3月まで

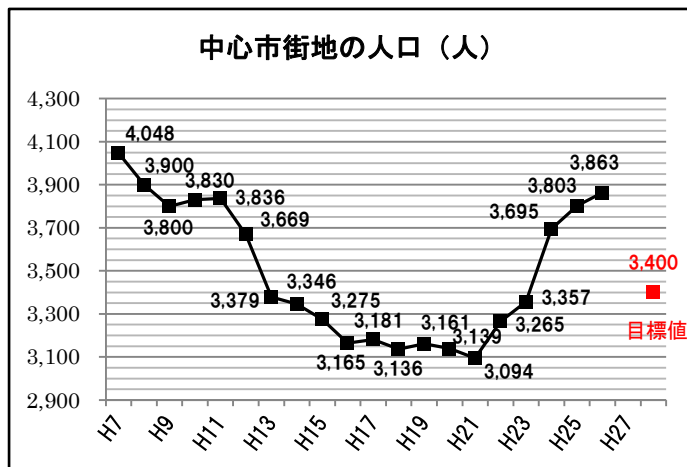
■区画面積：約76.5ha

■テーマ：人と人をつなぎ、交流から生みだす にぎわい溢れるまちづくり

| 基本的な方針 | 中心市街地の活性化の目標 | 目標指標 | 基準値 (H22) | 最新値 (H27) | 目標値 (H28) |
|--------------------------|------------------------------------|-------------------------|-----------|-----------|-----------|
| すべての人が安心・安全で快適に暮らせるまちづくり | 目標 1 街なか居住の推進 ～住みたくなるまちづくり～ | 中心市街地の常住人口(人) | 3,265 | 4,032 | 3,400 |
| 商業の活性化による活気あるまちづくり | 目標 2 来街者の回遊の拡大 ～訪れたくなるまちづくり～ | 中心市街地の歩行者・自転車通行量(休日)(人) | 1,174 | 3,621 | 1,470 |
| 人と人との交流によるにぎわいあるまちづくり | | | | | |

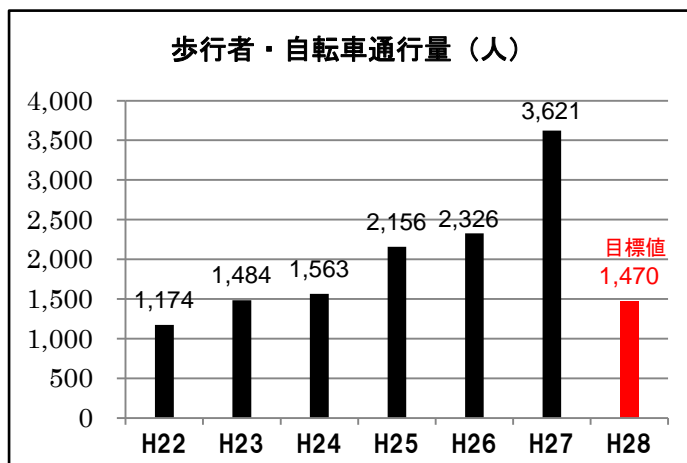
■指標の達成状況

<目標1>



目標を達成した要因として、「土地区画整理事業」の進捗率は、平成22年度末の約78%から平成26年度末には約89%へと順調に進捗しており、便利で快適な居住環境を創り出していることや、新築が見込まれていた共同住宅による増加に加え、計画にはなかった106戸の分譲マンションが整備されたこと等が人口の増加につながっている。

<目標2>



目標を達成した要因として、「連続立体交差事業」において、平成23年12月に太田川駅の高架化、平成25年度末に残りの側道、交差道路の整備完了により、人々の駅東西の行き来がスムーズになり新たな回遊性が生まれたこと及び平成27年3月に駅西側と駅高架下スペースの一体的な商業施設の開業により、商業活動のさらなる活性化が図られたことが通行量の増加に結びついている。

■事業実施状況（平成27年3月末時点） 全43事業

| | 完了 | 実施中 | 未着手 |
|-----|----|-----|-----|
| 事業数 | 16 | 25 | 2 |

※未着手事業：大田からくり時計整備事業（駅前からくり時計設置）、駅東歩道整備（幅員15mの歩行者専用道路を整備）

■前計画の課題と方向性

太田川駅周辺の整備も最終局面を迎え、それに伴い人口、小売店舗の数、来街者数は増加傾向にあり、まちづくりは概ね計画通りに進んでいるが、これまでの成果等が腰折れしないように、しっかり支えていくためにも次の課題等を解決し一層にぎわいあふれるまちづくりを推進していく必要がある。

・イベント開催団体の育成

にぎわいの拠点となる駅前イベント広場でのイベント開催数が平成26年度実績で24回と徐々に増加しているものの、整備した都市基盤においてはまだまだポテンシャルを秘めている。

また、平成28年中に完成予定の駅西30m歩道に設置する大屋根は、天候に左右されることなくイベント等の開催ができることから新たなポテンシャルが加わることとなる。

なお、市や観光協会以外が主体となるイベントの実施は伸びていないが、イベントを実施したいという声はあることから、イベント開催数を増加させるなど駅前イベント広場及び大屋根の認知度を高めていくとともに、イベント企画・開催のできる団体を誘致、育成することが必要。

・太田川駅周辺の回遊性の拡大

歩行者・自転車通行量は増加し、目標指標は達成しているが、駅前イベント広場参加者調査の結果から、イベント参加者の多くはイベント参加を目的としての来街者であり、他の施設等への回遊行動に結びついていない。

また、イベント参加者の約3分の1は、駅前イベント広場に「初めて来た」「ほとんど来ない」と回答している一方で、約半数は、イベント等の開催があれば駅前イベント広場に来ると回答しており、魅力あるイベント等の開催によって交流人口を増やすとともに、商業者間の連携や多様なサービスの提供により回遊性の拡大を図るとともに、名古屋市へ流れている市民の買回り品が購入できるなど商店の魅力向上が必要。

中心市街地活性化の課題（総括）

- 効率的で持続可能な住環境整備を進めるためまちなか居住の推進が必要（課題①）
 - ⇒ 土地区画整理事業を始めとする都市基盤整備事業が進み、居住者や来街者にとって、安全で安心して生活・行動ができる環境の整備が実現しつつある。
 - ・人口減少や少子高齢化が進む中で、効率的で持続可能な住環境整備とコンパクトなまちづくりを進めるため、中心市街地の定住人口をさらに増やし、まちなか居住を推進する必要がある。
- 商業の集積を高め、地域経済の活性化と市民の利便性を高めることが必要（課題②）
 - ⇒ 商業の核となる大型商業施設の誘致がなされ、来街者がまちを回遊しやすい環境が整備されてきた。
 - ・整備された環境を活かして太田川駅を中心として商業施設の集積を図り、商業者間の連携や多様なサービスの提供や買回り品が購入できる商店の魅力向上等によって、地域経済の活性化を図るとともに、市民の利便性を高める必要がある。
- 整備された都市基盤を活用したにぎわいを高める活動の促進が必要（課題③）
 - ⇒ 駅前イベント広場などの都市基盤整備は計画通りに進み、イベント開催数も徐々に増加してきている。
 - ・駅前イベント広場及び大屋根の認知度を高めるとともに、実施主体を発掘・育成することが必要である。

2. 新計画の概要

■はじめに

前計画では、「市街地再開発事業」や「連続立体交差事業」始め市を中心とした「駅前イベント広場」等の大規模な施設整備や「日本福祉大学東海キャンパス」の開設、「ラスパ太田川」のオープン等により、中心市街地の活性化の目標である「街なか居住の推進 ～住みたくなるまちづくり～」 「来街者の回遊性の拡大 ～訪れたくなるまちづくり～」とも数値目標は達成し、一定の効果があったと言えるが、前計画の最終年度の平成 27 年度中に整備が完了した「東海市芸術劇場」や「大屋根」などの新たなポテンシャルを持つ施設が加わることから、中心市街地内での回遊性、イベント等の開催及び周知を一層推進することで、より大きな効果を生みだしていく。

そこで今後は、前計画で整備した施設及び機能の活用とポテンシャルの最適化を進めるとともに、事業の実施主体が単独で事業を推進するだけでなく、中心市街地活性化協議会を構成する団体等が連携して事業を推進することで、これまでの成果等が腰折れしないようしっかり支えていくとともに、さらなる中心市街地の活性化を目指した新計画を策定する。

計画期間

基本計画の計画期間は、中心市街地で現在取組んでいる土地区画整理事業の整備が完了する時期が平成32年度であることや、活性化に向けた各事業の実施時期を考慮して、平成28年4月から平成33年3月までの5年間とした。

中心市街地の区域



太田川駅を中心とした土地区画整理事業の事業区域を含み、都市機能や居住機能の誘導を図る上で活性化への効果の高い、前計画と同様の区域を設定した。



3. 中心市街地の活性化の目標

基本的方針 1

すべての人が安心・安全で快適に暮らせるまちづくり

目標 1 まちなか居住の推進 ～ 住みたくなるまちづくり ～

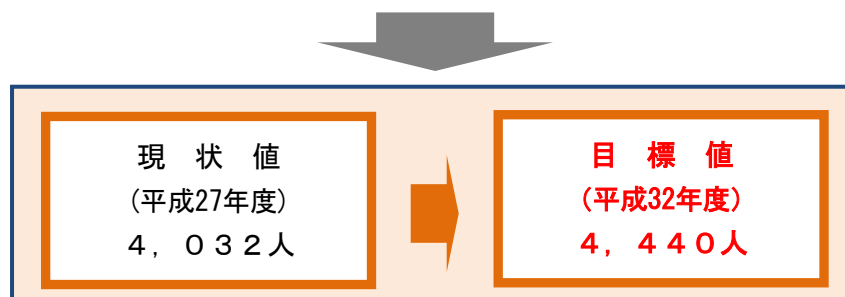
前計画では土地区画整理事業、連続立体交差事業、東海市芸術劇場等の大規模施設の整備を進めることで、良好な景観が保たれ、快適に暮らせる環境が整備された。今後は、引き続き土地区画整理事業を進めるとともに、市民参画の推進や市民との協働と共創による地域の再生・活性化などの課題解決に向かって、住民のまちづくりの意識や地域コミュニティの強化を図る。



指標 1 ⇒ 中心市街地の居住人口

| 1. 中心市街地の居住人口に関する事業 | |
|--|-------|
| ① 人口推計による増加 | 60人増 |
| ② 「市街地再開発事業(駅西地区)」の完成による増加 | 236人増 |
| ③ 「土地区画整理事業」などにより、住宅新築の増進を図るとともに居住環境を整備する事業を展開 | 25人増 |
| ④ 民間による新たな共同住宅を整備 | 90人増 |

$$\begin{array}{rcccl} \text{現状値} & & \text{増加} & & \\ 4,032人 & + & 411人 & = & 4,440人 \end{array}$$

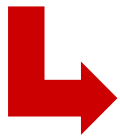


基本的方針 2

商業の活性化による活気あるまちづくり

目標 2 地域経済の活性化 ～ 飲食・買い物したくなるまちづくり ～

「中心市街地エリアマネジメント事業」により、商業者等間の連携や多様なサービスの提供について調整を図り、回遊性の向上や、若者による「チャレンジ創業」等の支援を含む「創業支援計画」等により、まちなかで創業したい意欲的な商業者の支援を進めるとともに市民の利便性を一層高める。



指標 2 ⇒ 中心市街地の商店数

2. 中心市街地の商店数に関する事業

① 「中心市街地エリアマネジメント事業」などにより、出店を希望する商業者と地権者とのマッチングを進める事業を展開

10店舗増

② 「まちなか創業支援事業」などにより、商工会議所やまちづくり会社と連携を図り経営のノウハウや店舗づくりのアドバイス等により起業を支援する事業を展開

10店舗増

③ 「市街地再開発事業(駅西地区)」の完成による新規出店

12店舗増

現状値 112店舗 + 増加 32店舗 = 140店舗



現状値
(平成27年度)
112店



目標値
(平成32年度)
140店

基本的方針3

人と人との交流によるにぎわいあるまちづくり

目標3 来街者の拡大 ～訪れたいなるまちづくり～

前計画で完成した駅前イベント広場等の利用者をさらに増加させるための取組として、地元企業や団体が1年に1度は特色を活かしたイベントや発表会等を企画・開催できるよう働きかけていくとともに、高校、大学や東海市芸術劇場等を活用する団体との連携・協働型の生涯学習事業等の展開により、人々が訪れたいなるにぎわいあるまちづくりを展開する。

また、多くの訪日外国人旅行客が市内に宿泊している現状を踏まえ、観光の目玉の一つである囃鳴広場やイベント広場への誘客と受け入れ環境の整備とともに、訪日外国人も利用しやすいホテル等の宿泊施設の誘致と当該ホテル等周辺に日本庭園の新設を検討するとともに、パスポートセンターの利用拡大を進める。加えて、太田川駅前線の(仮称)大田ICから県道名古屋半田線までの延伸や駅東歩道の整備等、回遊性の拡大のための基盤整備を進める。

指標3 ⇒ 中心市街地に整備された公共施設(※)の利用者数(年間)

※子育て総合支援センター、市民活動センター、観光物産プラザ、東海市芸術劇場、パスポートセンター、駅前イベント広場(※まちづくり東海の主催、公募型関連事業)

3. 中心市街地に整備された公共施設の利用者数に関する事業

① 東海市芸術劇場事業による増加

180,000
人増

② パスポートセンター事業による増加

5,700
人増

③ 中心市街地活性化に向けた様々な取組みによる増加

16,030
人増

現状値

160,397人

増加

201,730人

＝

362,100人

現状値

(平成27年度)

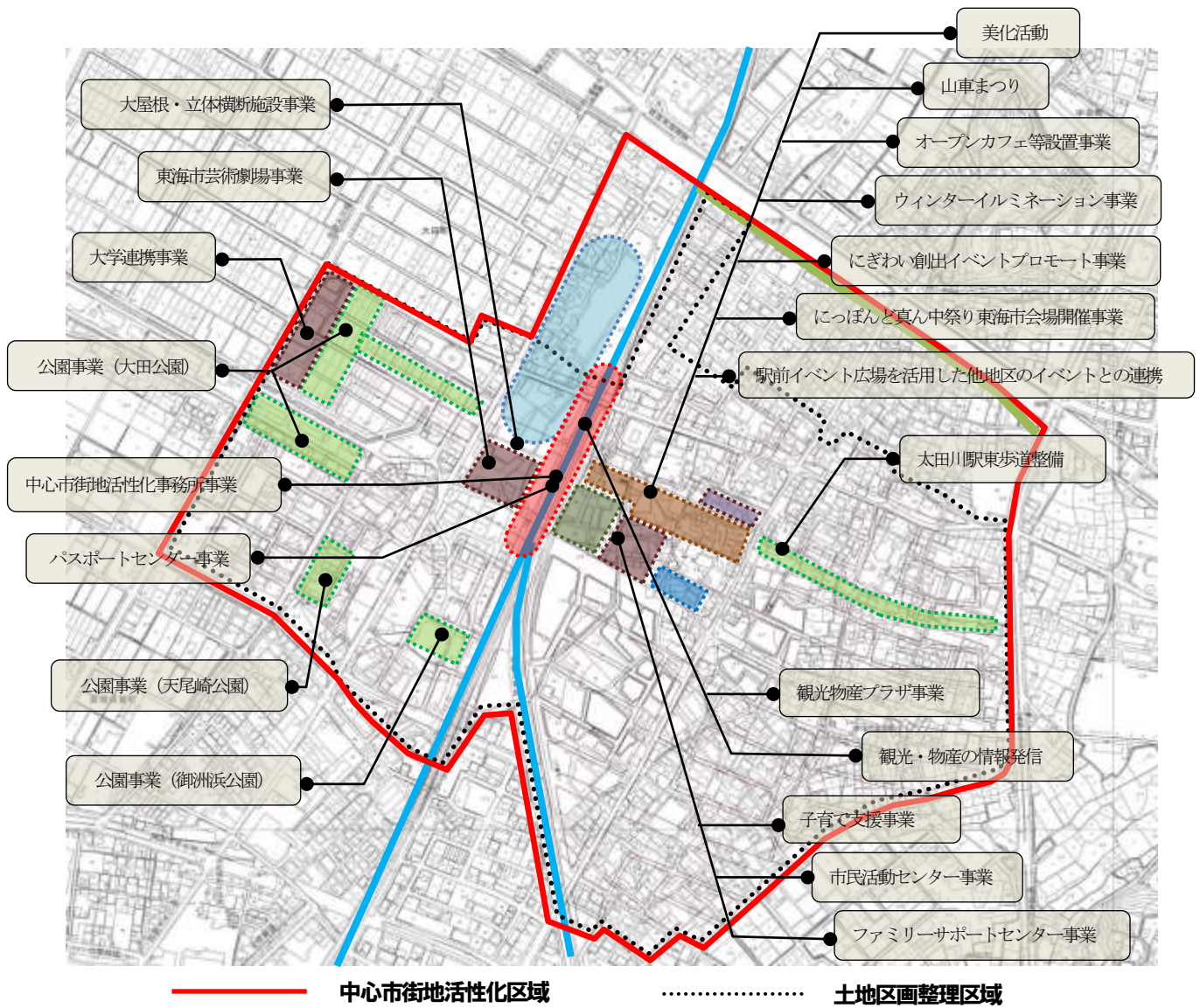
160,397人

目標値

(平成32年度)

362,100人

4. 活性化事業の実施箇所



区画整理地区内での事業

- 東海太田川駅周辺土地区画整理事業 (Aichi Ota River Station Surrounding Land Reorganization Project)
- 大田街並みづくり協定 (Ota Street Revitalization Agreement)
- 共同住宅建設 (Joint Housing Construction)

その他エリア全体での事業

- 中心市街地エリアマネジメント事業 (Center City Area Management Project)
- 中心市街地Wi-Fi環境整備事業 (Center City Area Wi-Fi Environment Improvement Project)
- 訪日外国人観光誘客事業 (Inbound Foreigner Tourism Attraction Project)
- 中心市街地商業活性化診断・サポート (Center City Area Commercial Revitalization Diagnosis/Support)
- 人材育成セミナー (Human Resource Development Seminar)
- 観光ガイドブック作成事業 (Tourism Guidebook Creation Project)
- 商品開発 (Product Development)
- 高校生によるまちづくり事業 (High School Student-led Town Revitalization Project)
- 大学生によるまちづくり課題調査研究事業 (University Student-led Town Revitalization Issue Investigation/Research Project)
- 大学生のまちづくり参加 (University Student Participation in Town Revitalization)
- まちなかウォーキング推進事業 (Downtown Walking Promotion Project)
- 健康応援ステーション事業 (Health Support Station Project)
- まちなか創業支援事業 (Downtown Startup Support Project)
- スイーツによるまちづくり事業 (Sweets-based Town Revitalization Project)